

科目名 精神看護学実習 時間割表記名 精神看護学実習	配当時期 3年次 単位数 2単位 時間数 90 時間(12 日間)	講義担当者 樋口 裕也
事前学習内容 実習要項参照		
授業目標 【実習目的】 精神疾患をもつ患者および家族の理解を深め、精神症状が患者の生活行動に及ぼす影響を総合的に把握し、患者に応じた看護が実践できる基礎能力を修得する。 【実習目標】 1. 精神疾患・精神症状をもつ患者の健康障害が理解できる。 2. 精神疾患・精神症状をもつ患者への治療の実際と、治療上必要な看護の実際が理解できる。 3. 精神疾患・精神症状をもつ患者の日常生活上必要な援助ができる。 4. 精神疾患・精神症状をもつ患者との関わりを通して、治療的援助関係の形成に向けて取り組むことができる。 5. 精神障害・精神症状をもつ人の人権を守り、リハビリ(回復)を支える精神看護の役割について理解できる。 6. 地域における精神障害者の生活の実際を知り、患者の望む「生活」や「生き方」を実現できるような支援について考えることができる。 7. 保健・医療チームの一員としての自覚をもち、専門職業人として望ましい態度がとれる。		
教育目標との関連 1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解する。 2. 人々が生活するうえでの健康の意味を、環境との相互作用の観点から理解する。 3. 対象の生活をよりよくするために、科学的根拠に基づいた看護が実践できる基礎的能力を養う。 4. 人々の多様な価値観を尊重し、専門職業人として倫理観に基づいた看護を実践できる能力を養う。 5. 保健医療福祉制度とそれに関わる職種の役割を理解し、チーム医療を実践するための基礎的能力を養う。		
授業の流れ 精神看護学では、精神に障害を持つ人を患者とし、患者の対人関係の障害や日常生活行動の障害の視点から患者を理解し、看護を実践することをねらいとしている。また、患者の治療や生活の場が、精神医療施設から地域生活支援へ移行していることから、入院している患者への看護だけでなく、地域で生活と治療を継続している患者への看護を学ぶようにする。 精神科病棟 10 日間のうち8日間は熊本医療センターで実習を行う。前半の 4 日間はシャドウイングを通して、精神疾患・精神症状をもつ患者への治療の実際と、治療上必要な看護の実際について学ぶ。また、日常生活上必要な援助について、看護師とともに一部実施しながら学ぶ。後半の 4 日間は受け持ち患者の看護過程の展開を通して、精神症状が日常生活に及ぼす影響について理解する。また、患者の強みに着目した援助について学ぶ。受け持ち前週の後半は、受け持ち患者を選定してもらい、受け持ち患者を担当する看護師にシャドウイングし、受け持ち患者の精神症状の特徴や接近方法について学び、カンファレンスや日々の		

指導により、患者の能力に応じた日常生活の維持と向上に向けた援助について考える。また、プロセスレコードによる看護場面の再構成により、受持ち患者との関わりを通して自己の考え方やかかわり方を振り返り、自己洞察する。

精神科病棟 10 日間のうち 2 日間は菊池病院で実習を行い、精神症状がある患者との個別性のあるかかわり方及び患者－看護師関係について学ぶ。

臨地実習半日は、菊池病院の訪問看護に同行し、精神障害があっても治療で症状をコントロールしながらセルフケア能力を高め、様々な社会資源を利用しながら地域での生活を行っていることを学ぶ。

臨地実習半日は菊池病院の精神科デイケア、臨地実習 1 日は就労支援事業所を利用している人との関わりを通して、地域で看護が提供される多様な場と看護の役割について学ぶ。

精神障害をもつ患者の人権を守るための法律や制度についても、オリエンテーションやデモンストレーション、カンファレンスを通して学びを深める。

事例検討会を通して、お互いの学びを共有し、精神疾患を持つ患者及び家族への看護について理解を深める。

評価

ルーブリックに沿って評価する。

使用するテキスト

- ①系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院
- ②系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院
- ③系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院

参考文献

- ①ストレンクスからみた精神看護過程 医学書院